

事務事業評価シート

評価実施年度：平成29年度

上位の施策名称 施策Ⅲ-2-3
文化芸術の振興

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 文化国際課文化振興室長 柳樂ひとみ 電話番号 0852-22-6776

事務事業の名称	県立美術館事業		
目的	(1) 対象	県民	
	(2) 意図	美術に対する県民の興味や関心が高まる	
事業概要	平成11年3月に開館した県立美術館において、企画展・常設展の実施、教育普及活動、調査研究等の美術館活動を実施し、県民の文化活動の拠点とする。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 美術館入館者数	目標値		240,000.0	240,000.0	240,000.0	240,000.0	人
		取組目標値						
	式・定義 入館者数	実績値	227,657.0	229,038.0				
		達成率	-	95.5	-	-	-	%
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	385,866	396,899
うち一般財源 (千円)	302,577	305,102

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

・平成26年度は開館以降、過去最低の入館者数であったが、27年度は対26年度比14%、28年度は対27年度比1%と増加傾向が続いている。
 ・平成28年度の企画展は観覧者数が目標値を上回ったものが複数あり、中でも「ポーラ美術館コレクション」では、対目標値152%、8年ぶりに60,000人超えを達成した。
 ・入館者の内訳は、年代別にみると50~60代が多く、外国人は年々増加傾向にあり、平成28年度初めて1,000人を超えた。
 ・平成25年に「かぞくの時間」の取り組みを始めたところ、利用者は年々増加している。

6. 成果があったこと(改善されたこと)

誘客が可能な企画展を開催することができ、企画展については、27年度は対前年度比57%と高い増加率を記録し、28年度も、更に対前年度比6%増と増加傾向が続いている。

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

①困っている「状況」

- ・目標値24万人が達成できない。
- ・集客が企画展内容に大きく左右される。

②困っている状況が発生している「原因」

- ・予算の制約がある中で、多くの人に知られ、誘客に繋がる企画展を継続的に開催することには限界がある。
- ・開館後の年数も経ち、県民等が美術館に対し目新しさを感じなくなった。
- ・企画展以外に来館の目的、きっかけとなるものが少ない。

③原因を解消するための「課題」

- ・来館者の要望にマッチする展示内容等を企画する。
- ・企画展以外にも「美術館に行きたい」という動機づけに繋がるような整備を行う。
- ・より多くの方の展示や美術館に対する興味を誘い、足を運んでもらえるような誘客活動、イベント等を行う。

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

- ・多くの誘客が可能な企画展を開催する。(重点的な予算配分)
- ・学芸員等が専門性を追求するだけでなく、観光や予算を意識した企画ができるよう、今後も研修や指定管理者等との企画会議を充実させる。
- ・指定管理者も含めた美術館に関わる者が、美術館トータルの運営を考え、連携・協力して展示・イベント等を企画・実施し、常に改善を図る。
- ・子どもから高齢者までの幅広い年代の方、県内・県外・国外の多くの方が来館し、誰もが利用しやすく、楽しめる、心地いい施設となるよう整備する。
- ・開館20周年に向け、施設・設備のリニューアルを呼び水に、初めて訪れる方だけでなく、再訪する方を増やす展示のあり方、企画を考える。